

■誌上発表 1 2

1 研究主題 名画の空間を視る（名画のペーパーレリーフ）

2 提案者 江戸川区立小岩第一中学校 教諭 矢野 芳幸

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

形の認識、奥行きや空間の想像力は「ことば」と同じように、共通理解できていると考えられているが、実際には歴史や文化の違いにより、いろいろな理解のレベルがある。

絵画作品をレリーフ状に分解して、奥行きを再現するように再構成する作業は、一枚の平面の絵に奥行きを感じるよう強制する。ペーパーレリーフに奥行きを感じることは当然だが、この作業をすることではじめに見ていた平面の作品がさらに奥行きの感じられるものに見えてくる。

ロダンが、「奥行きで見る」ことの必要をくり返し強調したように、造形の知覚において奥行きの感性は想像力の重要な要素であり、絵画表現のイリュージョンを理解する前に、だれもが共通にもっている感性である。量感やバランス、プロポーション、構成的な空間の理解なども、この共通感覚の上に磨かれるものとする。

4 学習の目標

(1) 西洋や東洋の絵画表現の違いに、遠近法や奥行きのちがいがあ

る。
・絵画空間の知覚について、西洋では三次元の空間認識を再現する方向で発達して来たのに対し、日本では、平面的・装飾的・象徴的——ときには前近代的であるとまで言われて来た。たしかにイタリア・ルネサンスに代表されるように、パースペクティブ（透視図法）の完成にしのぎを削った時代があり、キアロスクーロ（明暗法）、 sfumato、バルール（色価）など西洋では独自の歴史をもっており、空間知覚に関する感性としてデッサンやスケッチに多大な影響をおよぼしてきた。しかし、遠近法や立体感、奥行きの感性は西洋の独占ではない。

(2) 奥行きの感性が、知識理解にとどまるものでなく、立体視の知覚であることを体験する。

・ステレオ写真など3Dの体験実験。フォトモ。だまし絵（トロンプルイユ）。

(3) 実際の制作では、同一の複製画を4～5枚印刷したものを使いペーパーレリーフにする。

・今回ペーパーレリーフと呼んだものは、シャドーボックスとかデコパージュと呼ぶほうが一般的のようだ。インターネットの検索では、後者の名称で検索するといろいろな技法の実際を知ることができる。

5 評価の観点

(1) 関心・意欲・態度

① 名画など絵画作品に親しんでおり、意欲的に制作する態度がみられる。

(2) 発想や構想の能力

① 平面作品から具体的な立体空間を構想して、立体に再構成する手順を考えられる。

(3) 創造的な技能

① 複製作品を立体の重なりに解釈してカッターで切り抜き、空間の関係を考えながら厚紙を間に入れて奥行きを強調する（限られた枚数の材料を工夫して奥行きを作り出す）。

(4) 鑑賞の能力

① 作品を見て表現の違いや工夫に気がつくことで、自分の好きな作品をより深く鑑賞する。

6 学習計画（全6時間）

(1) 用具・準備

① 材料 名画の複製（鑑賞資料のページから作品を選んだ。）

② 道具 カッターナイフ カッターマット 間紙用の厚紙（段ボール紙 スチレンボード）
木工ボンド 定規

③ その他 美術資料集 教科書 ピンセット つまようじ（細かい作業にあると便利）
例示説明用にプロジェクタやパソコン

(2) 展開

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	1	資料集の鑑賞のページを見ながら、西洋の美術と日本の美術の違いについて感想を求める。	<ul style="list-style-type: none"> 資料集の前半が技法、後半が鑑賞。鑑賞の前半が西洋の美術、後半が日本の美術となっている。 教科書では「日本絵画の造形美」「日本の美術と世界」「北斎と遠近法」(日文、美術2・3上、p. 32~39)なども利用できる。いずれも深く追究できる問題を含んでいるが、生徒があげた特徴との関連でいろいろと使える。
二	1	<p>ペーパーレリーフの技法の説明</p> <p>資料集の鑑賞の頁から自分の好きな作品を選ぶ。</p>	
三	3	<p>作品が決まったら複製をよく見て、奥行きに注意する。(漠然と視るのではなく、中に何が描かれているのか探させるのもよい。文章化して叙述させると効果的。)</p> <p>複製画は4~5枚、1枚は切らないで台紙となるから、実質は3~4枚をパーツに切り分ける。</p> <p>間にはさむ厚紙は、空き箱をこわした厚紙・段ボールで十分。スチレンボードは軽くて切りやすく厚みも出しやすい。(形は表から見えないければどのように貼ってもよい)</p> <p>細かい作業なので、カッターナイフの安全に気をつける。</p> <p>ボンドをきれいに付けるために、つまようじ、ピンセットなどを使うとよい。</p>	<p>参考作品の他に、制作の手順をパワーポイントやスライドに取り込んでおくと理解しやすい。(上図は作業の道具と途中の様子。)</p> <p>「近景・中景・遠景」を見分けさせる。カッターで切り抜くことも考慮して塊でつかむ。(難しいようなら、白黒コピーの上にカッターナイフで切る線を鉛筆で描かせてみる。)</p> <p>下図は、資料集の一頁。作品が3点含まれる。</p>
まとめ	1	<p>出来上がりは資料集の名画を時代の流れのもとに一望できるような展示にする予定。</p> <p>(できたものを順次貼っていき、みんなで空想の美術館を楽しむ)</p>	